

中国の糧票についてのメモ

泉 留維 (いずみ・るい)

中国では、都市住民は 1990 年代初期 (北京市内では 1993 年) まで、主食の米や小麦粉等を買う際には「糧票 (リャンピャオ)」が必要であり、この糧票は 1949 年の建国時から発行されていた。糧票には、米や小麦粉といった交換対象が限定されたものから、食料品一般と交換できる比較的汎用性の高いものまで様々な種類がある。また、有効範囲も全国どこでもというものから特定都市、北京市や天津市といったものまで様々である。

そして、糧票は、単なる穀物配給券というバウチャーとしての役割だけでなく、一時 (特に 80 年代) は「第二の人民元」として転々流々した。農村部での政府買い上げ価格と、都市での売り渡し価格に大きな逆ざやが生じたため、農民が糧票を購入、それで格安で物を買ひ、それを政府に売り渡したのであった。この逆ざやが、貨幣としての大きな裏付けとなったのであった。ちなみに建国初期においては、公務員の報酬、その基準となる項目である食料費、光熱費、公益費などが、人民元ではなく、すべて主食である米を基本単位として換算されていた。

戦後においてこの糧票とよく似たシステムとしては、アメリカのフードスタンプを挙げることができる。アメリカのフードスタンプは、社会保障制度の一つとして 1964 年に制定されたものであり、貧困層を交付対象とし、おおむね現金収入の 30% と必要な食料費の差額が支給される。受給者は政府指定の食料品店に行って切符と食料とを交換することができる。中国の糧票は、都市住民はこれがなければ必要な食料品や衣類を入手することができなかつたため、社会保障制度としてのフードスタンプとは大きくその目的は異なっているが、生活必需品に裏打ちされ、ブラックマーケットで売買されるという貨幣的な要素を持っている点では非常に似かよっている。

< 各種の糧票 >

(交換対象 : 発行年もしくは有効期間 : 有効範囲 : 発行所)

北京市面票 (小麦粉 2,500g : 1992 年 8 月交換限定 : 北京市 : 北京市発行)



< 裏面無し >

全国通用糧票（食料品一般 1,500g：1966 年発行：全国：中華人民共和国糧食部）



<裏面：(1)本券は全国で各種の食糧品を購入することができる。(2)購入する際は、当地の糧食部が規定した配給食糧と交換する。(3)本券の額面は食糧品の重量である。(4)本券は売買、偽造、書き換えをしてはならない。紛失に関して再発行は行わない。>

北京市地方糧票（食料品一般 100g：1986 年発行：北京市：北京市）



<裏面あり>

天津市地方糧票（小麦粉 2,500g：1986 年発行：天津市：天津市）



<裏面あり>

天津市地方糧票（トウモロコシ粉 100g：1972 年発行：天津市：天津市）



<裏面あり>